

屋久島の縄文杉に魅せられて4半世紀

「初瀬蔵」木工作家
大楯 忠夫さん

桜井市初瀬の街道筋に工房「初瀬蔵」を構える木工作家の大楯忠夫さん(75)は、以前暮らしていた宇陀郡御杖村桃俣の工房で開発して製品化した「地球にやさしい日めくり」という「エコめくり」を製作した。31のエコメッセージがイラスト付きで「五七五」の川柳としてしたためられている。県産の製材所から出る端材を使い、紙は100%再生紙でインクは大豆のインクを使うなどすべてエコな素材だ。この作品のように、大楯さんの原点になっているのが、鹿児島県屋久島の縄文杉に触れたこと。自然な時間の流れに感銘を受けたことがその後の人生を変えた。コンセプトの木を使った「人をやさしくする作品づくり」が、桜井市のふるさと納税返礼品「手提げ行燈(あんどん)」などとして引き継がれている。

Made
in
奈良

桜井市 初瀬蔵



エコにこだわった「地球にやさしい日めくり」。1枚、1枚川柳がつづられている

千葉県土浦市出身。その後のベースは大阪へ。大正区にある工業高校化学科を卒業し、昭和47(1972)年、ムービーカメラマンとしてスタートを切った。同56(1981)年からテレビのコマーシャルカメラマン、そしてディレクターに。全日本CMコンクールで奨励賞を取るなど活躍した。平成7(1995)年、宝石メーカーのダイヤモンドをPRする「永遠の美」をテーマにしたCM制作のため、ダイヤモンドを身に著けた外国人女性をモデルに、屋久島の縄文杉の前で撮影した。

縄文杉の生命力に感銘を受けた大楯さんは「バックに4000数百年の屋久杉が、どれだけの雲の流れを眺めてきたのか。それに比べて僕は15秒のためにアクセクしている」と、自身の存在の小ささを実感したという。

屋久島から帰ってきてほどなく大楯さんは1年間、

奈良高等技術専門学校で木工の基本的な技術を学んだ。そして翌年、大阪で知り合った妻玲子さん(65)と共に、奥深い御杖村桃俣の山中に自宅兼工房のログハウスを建てて木工製作の道へ。「森のアトリエ」として作品づくりを始めた。「木の命に触れ、何か表現できないかなと作っていたころ、もう少し人通りのある所に引っ越そうかと思うようになってきました」と、16年間の森の中の仕事場と別れを告げる日がきた。そして、平成24(2012)年、桜井市初瀬に工房を移転。ウッドアート「初瀬蔵」として創作活動を開始した大楯さん。

「空き家を買って、築150年の蔵だけを残して、そこを工房にしました。2階部分は木工教室として利用することにしたんですが、梁なんかはすごいんですね。直線的でなく、曲がった木をそのまま使っているんです。残りの土地にギャラリ

「手提げ行燈」などエコにこだわり木を使い人にやさしい作品づくり

猫をモチーフにした時計



ーを含めたお店でもできるよう新築しました」と話す。大楯さんは「材料の木は、今も御杖村の製材所から取り寄せています。その頃に作った家具類などは、今までやってきたいろいろなノウハウが生きてきて。とにかくクリエイティブに、オリジナルデザインの作品を作るといのがものづくりだと思ふようになりまして。常に『探す』というところが習慣になっています」と、移ってきた8年前を振り返る。

現在、桜井市のふるさと納税の返礼品に指定されているのは「手提げ行燈」以外に、親子で「脳トレ」できる木のパズル「楽しい動物園」など。また夫婦の楽しい語らいの時間をもってほしいという思いで作ったワインホルダーもある。

商品化している手提げ行燈は、約10個のパーツで作る。1つ作るのに3日ほどかかる。10個を集中して作るとすれば、10日ほどかかる。板のデザインを一枚切り抜くのに3時間。例えば、一般的な白木の手提げ行燈は付属品の電球、コード、



木のパズル

スイッチなどが付いて5400円(税抜き)。

「時計だと、置き時計で猫パズジョン、犬パズジョン、フクロウ、鳥…。壁掛けも。猫や犬でもポーズがさまざまでお手をしているとか、バリエーションがあります。それを図面として同じものを切り出せばギャラリで売れて、無くなったら補充します。商品として100種類ぐらいありま

すね」と、一つ一つ手掛けた作品に触れながら楽しそうに話す大楯さん。

「ここにある、例えば行燈は花鳥風月、雪月花をテーマにしたものです。ここで作っているのは自然の遷りを感じるゆとりのある暮らし方なのです。まさに今求められているし、そうしないといひなくなる一方です。だから、もう少し持続できる形でのスピードダウンをするため、時間にゆとりがほしいなという思いで時計を作っています」と。作品に大楯さんの考え方が凝縮されている。

「楽しい動物園」の開発には2年ほど費やした。そ

れでも、奈良高等技術専門学校の卒業生で熱意がある若者がいれば、いつでもノウハウ、コツを教えるという大楯さん。意匠登録できるような商品が多い中で「見えてくれないなと思ふて、コピーして自分の工房なりで作ってくれたらいいと思ふています」と、そんな若者から声掛けがあるのを楽しみに待ち続ける。

「人が木と出会うと『休み』になります。森の休日。初瀬蔵は森を育て、やさしい休日をお届けします。『立

つ』『木を見る』で『親』ですね。親というのは、だーんと立つ木の姿です。大地に根を下ろして生きるのが理想。それが親という言葉です。その日本人の心が今は忘れられているのではないでしょう。これからの時代は木を活用したやさしい暮らしが必要です。どうやこうや、僕が言っているのではなく、木が人の気持ちをやさしくしているのだ」と締めくくった。

初瀬蔵

○住所＝
桜井市初瀬880
○電話番号＝
0744(47)7912



<http://web1.kcn.jp/hasekura/>